Think the Earth

未来を変える目標
SDGsアイデアブック
活用ガイド

監修　未来教育デザイン confeito
発行　一般社団法人 Think the Earth

SDGs for School

2021年5月

年間で実施するプロジェクト案

プロジェクトのゴール

「新しいモノサシを手に入れよう」

ワークシートのダウンロード→http://www.thinktheearth.net/sdgs/book/

＊ここではSDGsの**目標**は青色で示しています

①発見する

《ねらい》

SDGsに親しみ、自分の関心のある目標を選ぶ
さらに自分にできるアクションを発見する

《手　法》

（1）アイスブレーク
- SDGsマークを使ったワークショップ（巻頭ワークシートを利用）

（2）アイデアブックの各目標の説明ページを使う
- 左頁のタイトル、絵や図、グラフだけ使って、どんなテーマか想像して話そう
- 絵や図、グラフについての質問・疑問をつくろう
- 右頁の文章を読んで理解しよう
- 文章を読んで質問や疑問をつくろう
- 理解したこと、心に残ったことを友だちに伝えよう
- 右頁の上にあるQRコードから169個のターゲットを知ろう
- 169個のターゲットから学校や家でできることを探そう
- 「考えてみよう」に書かれた投げかけについて考えよう

②コミュニケーションする

《ねらい》

他者とのコミュニケーションにより
多様な考えに触れ、自分の考えを深める

《手　法》

各目標の2つの「未来を変えたアイデア」事例を使う
- 左頁の写真とキャッチコピーだけを使って、どんな取り組みか想像して話そう
- 写真についての質問・疑問をつくろう
- 右頁の文章を読んで理解しよう
- 理解したこと、心に残ったことを友だちに伝えよう
- 文章を読んで質問・疑問をつくろう

③さらに発見する

《ねらい》

自分の関心のある目標に対して理解を深め、
地球や地域の未来を考える、自分なりの「新しいモノサシ」を発見する

《手　法》

巻頭のワークシートを活用し、
同じ目標を選んだ人たちでグループになろう
- なぜ、その目標を選んだのかをグループで共有しよう
- 目標について理解したこと、心に残ったことを共有しよう
- 選んだ目標に対しての疑問や質問をつくろう
- 「未来を変えたアイデア」を読んで感じたことを共有しよう
- 右頁にある「もっと知りたい」のURLにアクセスしよう
- わかったことを共有しよう
- 新しい考え方（新しいモノサシ）を発見しましたか？
  発見した「新しいモノサシ」をグループで共有しよう

④表現する・つくる

《ねらい》

この授業を通じて心が動いたことを形にして、表現する

《手法の例》

（1）プレゼン、スピーチをする（日本語、英語など）
（2）啓発ポスターをつくる（日本語、英語など）
（3）新聞をつくる（日本語、英語など）
（4）歌や曲をつくる（日本語、英語など）
（5）絵を描く
（6）マンガの続きを描く（例：自分を登場させる）

表現する・つくるのは誰のため？

誰のために表現するのかを考えるとき、普段のスケールを超えて、SDGsならではの大きな視点・視野をもつことで、いつもと違った表現が生まれてくるかもしれません。

- 76億の人々（日本という国を超える）
- 未来の子孫（人生の時間を超える）
- 過去の人々の知性や経験（世代や時代を超える）
- 地球上の生物すべて（人間という種を超える）

⑤さらにもう一歩

きみたちが考える
「未来を変えるアイデア」
も知りたいな

《 学校の中で 》

- 行事を通じて取り組む
  文化祭や運動会など、学校の行事を持続可能なやり方に変えるにはどうすれば良いか、考えてみる
- 学校の未来を考える
  学校の施設や運営について調べて、自分の学校を持続可能な学校に変えるアイデアがないか考えてみる

《 学校の外へ 》→P9へ

- 地域版のSDGsの本、教材を自分たちでつくる
  自分が暮らす地域や、学校がある地域で行われている取り組みを調べてSDGsの目標との関連性を調べ、「未来を変えたアイデア」のフォーマットを参考にしてまとめ、発表する
- 地域、企業、NPOとの協働プロジェクトをつくる
  地域の産業(企業、商店、農林水産業、行政など)の課題をヒアリングし、その課題を解決するアイデアを出したり、プロジェクト化したりしてみる

《 未来に向かって 》

- 自分なりの「未来を変えるアイデア」を自由に発想してみる
- 出たアイデアの実現方法について考える

＊「未来を変えるアイデア」ワークシートを活用しても良いでしょう

SDGsに向かう行動について

行動しよう！と言うとき、ともすればハードルの高い行動をイメージしてしまいがちです。そうした行動ができるに越したことはありませんが、SDGs for Schoolでは、マンガの主人公の「鈴(すず)さん」のように、小さな心の変化も大切な行動だと考えています。例えば、子どもたちが次のような行動を始めたら、ぜひ応援してあげてください。

●心が動く(もやもやして、答えは出ないが考え続ける)
●さらに調べる(ホームページや別の本にアクセスする)
●誰かと話す(友だち、家族、先生、大人…)
●心が動いたことを形にして表現する(絵を描く、曲をつくるなど)
●地域の商店や企業にアクセスする(調べる、取材するなど)　etc.

指導案フレーム

p2～p4の手法を組みあわせてください

アイスブレーク

授業への気持ちの切り替えが目的です。
ゲームなど気軽に取り組めるものを考えましょう

目標の提示

授業のねらいと目標を
ゴールとして提示しましょう

導 入

トピックへの入口です。
ここで生徒の主体性に火をつけましょう

- 想像力を刺激する　例:左頁の写真から内容を想像する
- 生徒に選択させる　例:学びたいSDGsの「目標」を選ぶ

展 開

トピックについて知り、
心が動く活動をイメージしましょう

- わかったことを伝えあう
  人に伝えることで理解が深まります
- 疑問をたてる
  疑問は学びを深めるきっかけになります
- アイデアを自由に出す
  多様な意見を認めあう場にするために、
  共感したり、感謝する言葉をたくさん使いましょう

まとめ

視点を身近なもの・ことに近づけながら、
未来を語りましょう

- 身近なものに置き換え、
  自分ごと化させる問いかけをしましょう
- 視点を未来に向ける問いかけをしましょう

指導案①

①発見する「心を動かそう」

・左頁のタイトル、絵や図、グラフだけ使って、どんなテーマか想像して話そう
・絵や図、グラフについての質問・疑問をつくろう

アイスブレーク

《ペア》
ワークシートのSDGsマークを使ったワークショップを行い、
記憶に残っていることを話しあう。何度かペアを替えながら

目標の提示

・自分の関心のあるSDGsの目標を「選ぶ」
・その内容を友だちに「伝える」
・最終的には疑問や質問を「つくる」

導 入

《個人》
・目標の説明の左頁にある図やグラフを使って、
自分が最も「感情」が動いたデータを複数探す

展 開

《ペア》
・自分が一番「感情」が動いた理由を相手に説明する
・相手の説明に、疑問や質問を伝える
・発表者を変えて、同じワークを実施する
※ペアを替えて、何度かワークを繰り返しても良いでしょう

まとめ

《クラス》
・友だちに伝えた疑問の中からひとつを選び、黒板に記入する
・全員が黒板に書き出すことで、疑問や質問をクラス全体で共有する
・気になった疑問や質問を、さらに自分で調べる

指導案②

①発見する「SDGsの世界に入っていこう」

・右頁の上にあるQRコードから169個のターゲットを知ろう

アイスブレーク

《ペア》
ワークシートのSDGsマークを使ったワークショップを行い、
自分が最も大切だと感じた目標を相手に伝える

目標の提示

・自分の関心のあるSDGsの目標を「選ぶ」
・QRコードの情報を使って、169個のターゲットを学ぶ
・学校や家で実現できそうなターゲットを探し、共有する

導 入

《個人》
・自分が大切に思う目標の説明ページにあるQRコードにアクセスし、
その目標に紐づいたターゲットを書き出してみる

展 開

《ペア》
・どんなターゲットがあったか、ペアで説明しあう
・学校や家で実現できそうなターゲットをペアで探す
※内容によっては、ターゲットの内容をアレンジしてもいいでしょう

まとめ

《グループ（4～5人）》
・グループで学校や家で実現できるターゲットを共有する
・グループの中で、実現可能なターゲットを選び、クラスで共有する
※クラスで実現できそうなターゲットを新聞などで「見える化」し、
実際に行動してみてもいいでしょう

指導案③

②コミュニケーションする
「SDGsのパンフレットをつくって伝えよう」

・理解したこと、心に残ったことを友だちに伝えよう

アイスブレーク

《ペア》
・前回の授業で、心に残った目標を思い出して、話しあう

目標の提示

・各目標の具体的な取り組みを知り、教えあう
・そのことを通じて多様な考えに触れ、自分の考えを深める

導入

《個人》
・前回、自分の心に残った目標の２つの事例を読み込み、30秒で説明できるように要点を簡単にまとめる

展開

《ペア》
・まとめた要点に絵や図を加えてパンフレットをつくる
・聞いた方は、感想（もしくは、疑問や質問）を伝えあい、作品を改善する
※ペアを替えて、何度か繰り返しても良いでしょう

まとめ

《クラス》
・作品を机上に置き、友だちの作品を鑑賞する（ギャラリーウォーク）

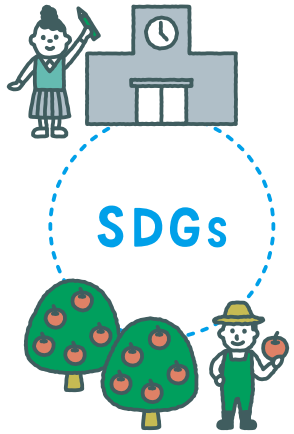
教室を飛び出して地域を取材しよう！

取材のゴール

「SDGsを共通言語ツールにして地域とつながり問題解決プロジェクトを立ち上げよう」

《ねらい》

メディアを活用することで、学校と地域の活動をつなぐことができます。学校の近くで、実際に社会課題や環境課題に取り組む企業やNPO、お店や農家、漁師さんなどを取材して、メディアを通じて他の人に伝えてみませんか。本のなかではなく、実社会で活動する人たちと出会い、自ら伝えるというプロセスを通じて、対話的、創造的、主体的な学びが生まれ、同じ地域に暮らす人として継続的な関係を構築することもできます。



聞きたい、知りたいを大切に

まずはSDGsを学ぶなかで「聞きたい」「知りたい」を育てていきましょう。生徒の心に「聞きたい」「知りたい」が生まれたらそのままにせず、「取材」につなげましょう。

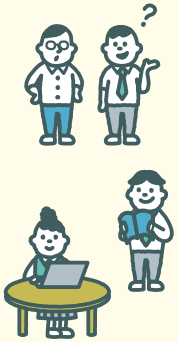
●取材とは
伝えたいテーマに沿って、取材先を訪れ、撮影、インタビュー等を行い、記事制作のための材料を集めること。

※P10～14はコピーして生徒に配って使うことも想定しています

START!

STEP 1
取材先のリサーチ

グループに分かれて、SDGsに沿って、身近な地域で持続可能な社会の実現に向けた挑戦をしている人や会社、団体などを探してみよう。ウェブサイトでのリサーチ、新聞などの記事、クチコミ、保護者へのヒアリングなど、様々な調査方法を試してみよう。日頃から新聞記事などをクリッピングしておくと見つけやすくなります。先生が取材先のおすすめリストをつくって生徒に提示し、そのなかから選んでも良いでしょう。



- [ ] 取材先候補を優先順位をつけてリストにしてみよう
  ※何らかの理由で取材ができない場合、次の候補にアプローチするため
- [ ] 複数のグループが参加する場合は取材先が被らないように工夫しよう

STEP 2
取材先のために自分たちができることを考えよう

「聞きたい」「知りたい」を取材するだけでなく、取材先がハッピーになる行動も考えよう。一緒にSDGsを達成していくパートナーになるにはどうしたらいいかを考えよう。

例）• 取材した記事を新聞など形にしてプレゼントする
• 取材先の「困った」に対して、アイデアを考えるプロジェクトを起こす
• 取材したことを文化祭等で広く知ってもらう　など

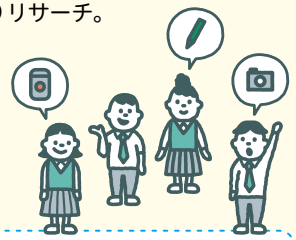
STEP 3
依頼＋アポイント

中高生の場合は、先生が生徒を代表して最初の依頼を行う方が良いでしょう。
※取材先との関係でご判断ください

- [ ] 取材主旨を伝える依頼状（メール）を書く。
- [ ] 確認事項① 取材スケジュール（日時）と当日の進行の相談
  （ex 1時間を工場見学、1時間をインタビューなど）
- [ ] 確認事項② 取材場所（取材先のオフィス、工場、農園等）
- [ ] 確認事項③ 当日の連絡先の交換（緊急連絡のため）
- [ ] 訪問人数を伝える（用意する会議室の大きさなどをイメージできるよう）。

STEP 4
取材前の準備

- [ ] 取材先の活動に関連する情報・背景情報をしっかりリサーチ。
  ※著書がある人であれば、その本を読んでいこう！
- [ ] 役割分担を決める（撮影、記録、インタビュー）
  • 撮影係：人物の写真、見学中の写真を撮る
  • 記録係：録音する、メモをとる
  • インタビュー係：質問をする



POINT 役割分担をすることで、取材先とのコミュニケーションが円滑になります（たとえば、インタビュー、撮影、記録を1人の人が行うと、最も大切な相手とのコミュニケーションがおろそかになってしまいがちです）。

- [ ] 何を聞くか考える
  仮説をつくる（文章量やレイアウトも考慮しながら、
  なぜ、その取材をするのか、読者に何を伝えたいかを明確にする）。
- [ ] 質問項目を考えて、書き出しておく。
- [ ] 記事構成に必要な情報は何か、依頼事項は何か書き出しておく。
- [ ] 撮影する写真について、事前に想定して書き出しておく。
- [ ] 写真を撮る人は、カメラの使い方に慣れておく。
- [ ] 取材前日に明日訪問する旨の確認連絡を忘れずに。

STEP 5 取材当日

持ち物

ノート

筆記具

レコーダー

カメラ

- [ ] 十分な睡眠を取って、当日は笑顔を忘れずに。
- [ ] 訪問したら、まず取材目的を伝え、当日の進行を確認。
  ※変更がある場合は臨機応変に対応
- [ ] 最初は雑談からでもよい。リラックスした雰囲気をつくることも大事。
- [ ] インタビューは、考えておいた質問をベースに、でも臨機応変に。
  対話のなかで新たな質問がつくれると良いでしょう。
- [ ] 質問して、答えをもらう。の繰り返しではなく、相手の答えに、
  ちゃんとリアクションをしましょう。
  ※「今のお話は、こういうことでしょうか？」と確認するなど
- [ ] わかりにくい、納得がいかないと思ったら、その場で遠慮なく聞こう。
- [ ] データや写真を借りる場合は、その交渉を行う。

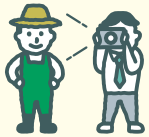
《撮影のこと》

- [ ] 撮影は遠慮しがちになるので、勇気をもって！
- [ ] 似た構図が多くなりがちなので、寄り、引きを意識しよう。

《寄り》
クローズアップ写真のこと。細かい物もアップで撮ると伝わります。

《引き》
ワイド写真のこと。現場全体の状況がわかる写真を押さえておこう。

- [ ] 人物の顔は、できれば笑顔を押さえよう。
  ※インタビューの内容をしっかり聞けていると、笑顔になる瞬間がわかります
- [ ] 話している時だけでなく、正面からの写真も撮影しておこう。
- [ ] よほど暗くない限りは、フラッシュは使わない方がベター。
- [ ] 解像度はできる限り高く（印刷する場合は特に）。



STEP 6 取材後～原稿執筆

- [ ] 取材先に御礼をメール等で送る（遅くとも翌日までに）。
- [ ] 録音を聞いてテキストを書き起こしてみよう。
  ※これはプロでもたくさんの学びがあります
- [「SDGsアイデアブック」を使って、見出し、写真、写真キャプション、
  本文などの構造を理解しよう。
- [ ] ウェブサイト、壁新聞などメディアにあわせてレイアウトや構成を考えて執筆。
  写真や図版の選定を行う。
- [ ] 先生とも相談しながら、推敲を重ねる。
  ※Google Docsなどを使えば、複数の人で書くこともできます
- [ ] できあがった原稿や写真を取材先に確認してもらい、
  修正点があれば原稿に反映し、記事を完成させます。

POINT 執筆のポイントは「説明文」にならないようにすること。取材者が何に心を動かされたかをしっかり書こう。書き手の心が動いていない文章は、読み手の心を動かすことができません。読者に伝えたいことが何か、明確にして書こう。読者を引き込むような書き出しを工夫してみよう。

STEP 7 記事の公開と未来への行動

- [ ] 記事を公開したら取材先に連絡しよう。SNSでの紹介もお願いしよう。
- [ ] 取材を通じて何を学んだか、先生・生徒なりに学習目標を明確にするため、事前にルーブリック表を作成し、自己評価してみるのも良いでしょう。
- [ ] 取材は出会いのきっかけに過ぎません。継続的な関係性がつくれれば、後輩たちにも継承していくことができます。
- [ ] さらに、ステップ②で考えたことや、取材後に出たアイデアを取材先に提案しにいくチャンスをもらえれば、パートナーシップを組んで問題解決プロジェクトをつくり出すことも不可能ではないはず！

POINT プロジェクトが生まれるコツは、取材先と目標が一致すること。こちらの想いを強引に伝えず、自分たちと、相手が笑顔になる方向を一緒に探す姿勢が大切です。

アクションブックづくりにチャレンジしてみよう！

地域版のアクションブック

神奈川県や佐賀県を舞台に地域の事例を集めた冊子をつくりました。地元の中高生が地域を取材して紹介するコーナーをつくり、これまでご紹介した手順を実施してみました。ぜひ、参考にしてください。 冊子のデータは以下のサイト経由でダウンロードできます。

http://www.thinktheearth.net/sdgs/booklet/

アクションブックをつくるウェブサービス

地域のアクションブックを自分たちでつくれるウェブサービスを開始しました。必要な項目をフォームに入力するだけで簡単に事例を紹介するページをつくることができます。以下のサイトで利用者登録をお願いします。

http://www.thinktheearth.net/sdgs/actionbook/

アイデアブックを使ってどんな授業をしているの？

アイデアブック活用事例集

学校寄贈プログラム（2018～2020年）に応募された学校から、どんな授業を実施したか報告いただきました。その一部をPDFファイルで共有しています。ぜひ今後の授業の組み立てにご活用ください。以下のサイトからPDFをダウンロードできます。

http://www.thinktheearth.net/sdgs/lessonideas/